

京都文化力プロジェクト・明治150年記念

伝統と創生

主催：京都文化力プロジェクト実行委員会
京都文化博物館、京都府無形文化財保持者会
後援：京都府教育委員会

明治維新以後、日本の工芸品の素晴らしさは万国博覧会などを通して、世界各国から大きな注目を集めました。これは奈良、平安の昔から伝えられ、積み重ねられてきた工芸技術の賜物といっても過言ではないでしょう。しかし、急速な近代化で殖産振興が進められるなか、文化財の保全は必要不可欠のものとなり、国は明治4年の古器物の保存法を機に次々と施策を打出し、同30年には古社寺保存法が制定され、本格的な文化財保護の行政が始まりました。戦後は昭和25年に文化財保護法を制定、工芸の技芸そのものを含めた無形文化財の保護に乗り出しました。同29年には文化財保護法を改正し、わざを高度に体現しているものを保持者または保持団体に認定し、伝統的なわざの継承を図ろうと重要無形文化財認定制度が定められました。京都府においても昭和56年には文化財保護条例を制定し、「もの」ではなく「わざ」を対象とした無形文化財を保存し、高度な工芸技術の普及啓発と未来への継承に取り組みました。

今日、世界の文化や工芸品が身近な存在となる一方で、われわれの生活様式は大きく変化し、「伝統」を基盤とする文化は未曾有の危機に陥ってしまいました。

この困難を乗り越え未来へと引き継ぐため、「伝統」を守る工芸家たちは技術の研鑽に努め、常に新しい時代の感性を取り入れるとともに、長い時を超えて守り伝えていくべきものは何か、伝統とは創生の積み重ねであるということに意識したものづくりに励んできました。道具や素材の確保などの問題もありますが、世界に誇れる日本の伝統的工芸文化を百年、二百年先へと繋げていくためには、こうした作り手の努力や文化財関係者、保護制度に委ねるだけでなく、使い手である我々があらためて工芸の魅力に気付き、注目していくことが不可欠といえます。

本展では、明治150年を記念、2021年の京都への文化庁の移転に先駆けて、物故者も含め、国、京都府から指定を受けた無形文化財保持者たちの作品を一堂に会することで、戦後、技術の継承に取り組み育んできた成果をご覧ください。京都から発信する「伝統と創生」から生みだされた工芸美の魅力をぜひ再発見していただき、伝統的工芸文化を大切に考えていただける機会となれば幸いです。

出品作家一覧

国指定/重要無形文化財保持者

染 織：稲垣稔次郎、上野為二、喜多川俵二、喜多川平朗、北村武資、志村ふくみ、三代田畑喜八、羽田登喜男、深見重助、福田喜重、細見華岳、村上良子、森口華弘、森口邦彦

陶 芸：石黒宗磨、近藤悠三、清水卯一、富本憲吉

木 工：黒田辰秋、中川清司、五世早川尚古齋、村山明

截 金：江里佐代子、齋田梅亭

人 形：林駒夫

府指定/無形文化財保持者

染 織：木原明、坂井修、羽田登

陶 芸：石橋裕史、木村盛伸、清水保孝、竹中浩

金 工：植田参稔

硝子工芸：石田亘、渡邊明

(各五十音順)

イベント

A 出品作家によるギャラリートーク

11月11日(日) 14:00~(約30分)

講師：石橋裕史、羽田登

12月8日(土) 14:00~(約30分)

講師：竹中浩、村上良子、渡邊明

場所：各日とも展示室内にて実施

B 出品作家との交流会

11月24日(土) 14:00~(約1時間)

講師：北村武資、林駒夫、村山明

12月9日(日) 14:00~(約1時間)

講師：清水保孝、森口邦彦

定員：各日とも20名(先着順)

費用：1,000円(お茶・ケーキ付)

場所：京都文化博物館7階サロン

申込方法

Aは申し込み不要。ただし、いずれも当日の入場者に限ります。

Bは事前申し込み必要。京都文化博物館ホームページ「総合展示イベント申込フォーム」よりお申込みください。(https://www.bunpaku.or.jp/exhi_sogo/form)



交通案内

- 地下鉄「烏丸御池」下車、5番出口から三条通を東へ徒歩約3分
- 阪急「烏丸駅」下車、16番出口から高倉通を北へ徒歩約7分
- 京阪「三条駅」下車、6番出口から三条通を西へ徒歩約15分
- JR・近鉄「京都駅」から地下鉄へ
- 市バス「堺町御池」下車、徒歩約2分



THE MUSEUM OF KYOTO 京都文化博物館
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
TEL.075-222-0888 FAX.075-222-0889
URL http://www.bunpaku.or.jp